

(1) 耐震診断の結果の公表(用途別一覧) ※令和5年9月22日更新

① 体育館

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手県営体育館	青山二丁目7-3	体育館	指針第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法	$I_s = 0.70$ $q = 1.50$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は、 $I_{SO} = 0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標、経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{SO} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{SO} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

② 病院・診療所

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考					
						内容	実施時期						
1	岩手医科大学附属病院 (現岩手医科大学附属内丸メディカルセンター)	内丸19-1	病院			—	—	—					
	10号館								(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1983年版)	$I_S/I_{SO} = 0.60$	未定	未定	「耐震改修」を指示
	6・7号館								(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	$I_S/I_{SO} = 0.25$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.18$	未定	未定	「耐震改修」を指示
2	遠山病院	下ノ橋町6-14	病院				建替え検討中	未定	「耐震診断結果報告書」の提出を指示				
3	盛岡友愛病院	永井12地割10	病院	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.10$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.68$								

I_S : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は、 $I_{SO} = 0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標。経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_S < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_S / I_{SO} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_S < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_S / I_{SO} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

③ 劇場, 観覧場, 映画館, 演芸場

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手県民会館	内丸13-1	劇場	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} = 1.25$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.75$			平成30年8月 改修工事完了

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{s0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{s0} = 0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{s0} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{s0} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

④ 集会場, 公会堂

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	盛岡市中央公民館	愛宕町14-1	集会場	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} = 1.33$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.81$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{s0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{s0}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{s0} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{s0} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑤ 百貨店, マーケットその他の物品販売業を営む店舗

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	Nanak(旧中三盛岡店)	中ノ橋通一丁目6-8	物販店	—	—			令和5年6月 解体工事完了
	第1工区(北側:昭和31年)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 0.31$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.19$			
	第2工区(東側:昭和39年)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 0.05$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.08$			
	第3工区(西側:昭和46年)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_S = 0.22$ $q = 0.49$			
	第4工区(西側:昭和56年)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_S = 0.52$ $q = 1.74$			
2	パルクアベニュー・カワトク(本館)	菜園一丁目10-1	物販店	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及「第3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_S = 0.81$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.47$			令和2年1月 改修工事完了
3	盛岡ターミナルビル (フェザン・ホテル外ロホリタン盛岡)	盛岡駅前通1-44	物販店	建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法	$I_S = 0.65$ $q = 1.53$			

I_S : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{SO} = 0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_S < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_S / I_{SO} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_S < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_S / I_{SO} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑥ ホテル, 旅館

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	ホテルニューカーリーナ	菜園二丁目3-7	ホテル	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_S/I_{SO} = 1.05$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.44$			
2	ホテル東日本盛岡	大通三丁目3-18	ホテル	—	—	—	—	—
	低層棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.01$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.62$			
	高層棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(2009年版)	$I_S/I_{SO} = 1.00$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.48$			
3	湯守ホテル大観	繫字湯ノ館37-1	ホテル	—	—	—	—	—
	低層棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(2009年版)	$I_S/I_{SO} = 1.26$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.76$			
	高層棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(2009年版)	$I_S/I_{SO} = 0.66$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.27$			
1	ホテルロイヤル盛岡	菜園一丁目11-11	ホテル	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(1997年版)	$I_S/I_{SO} = 1.06$ $C_T \cdot S_D = 0.33$			令和2年8月 改修工事完了
5	サンセール盛岡	志家町1-10	ホテル	—	—	—	—	—
	北棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.05$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.62$			
	南棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.72$			
	厨房			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 1.86$			
	通路棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.70$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.62$			
2	ホテルルイズ	盛岡駅前通7-15	ホテル	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1997年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_S/I_{SO} = 1.01$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.29$			平成31年 解体工事完了

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{s0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{s0}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{s0} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{s0} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑦ 博物館, 美術館, 図書館

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手県立博物館	上田松屋敷34	博物館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{s0} = 1.55$ $C_T \cdot S_D = 0.73$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{s0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{s0}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{s0} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{s0} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑧ 自動車車庫その他の自動車又は自転車の停留又は駐車のための施設

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	カワトク(別館駐車場)	大沢川原一丁目4-25	駐車場	(一財)建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説」	$G_{I_s} = 1.07$			
2	盛岡ターミナルビル(駐車場棟)	盛岡駅前通1-44	駐車場	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針・同解説」に定める「第2次診断法」(1996年版)	$I_s = 0.85$ $q = 1.03$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{S0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は、 $I_{S0} = 0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標、経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{S0} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{S0} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑨ 保健所, 税務署その他これらに類する公益上必要な建築物

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	盛岡市庁舎	内丸12-2	庁舎	—	—	—	—	—
	本館			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が非充腹材の場合)(1997年版)	$I_s/I_{SO} = 1.01$ $C_T \cdot S_D = 0.48$			
	議場棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が非充腹材の場合)(1997年版)	$I_s/I_{SO} = 1.16$ $C_T \cdot S_D = 0.44$			
2	盛岡市保健所(旧競馬会館)	神明町3-29	保健所	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(1997年版)	$I_s/I_{SO} = 1.00$ $C_T \cdot S_D = 0.48$			
3	岩手県運転免許試験場庁舎	下田字仲平183-1	庁舎	—	—	—	—	—
	庁舎棟1			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1977年版)	$I_s/I_{SO} = 1.06$			
	庁舎棟2			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1977年版)	$I_s/I_{SO} = 2.19$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{SO} = 0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$, $I_s / I_{SO} < 0.5$, $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$, $I_s / I_{SO} < 1.0$, $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑩ 小学校, 中学校, 中等教育学校の前期課程, 盲学校, 聾学校若くは養護学校

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手中学校・岩手高等学校	長田町7-60	中学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_S/I_{SO} = 1.60$			
2	盛岡白百合学園	山岸四丁目29-16	小中学校	—	—	—	—	—
	管理棟 A棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.33$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.53$			
	中・高 B棟(1階部分)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(1997年版)	$I_S/I_{SO} = 2.06$ $C_T \cdot S_D = 0.37$			
	中・高 B棟(2階部分)			文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$I_S = 0.74$ $q = 1.02$			
	管理棟 C棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.25$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.47$			
	管理棟 D棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$I_S/I_{SO} = 1.28$ $C_T \cdot S_D = 0.42$			
	屋内運動場 E棟(1階部分)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(1997年版)	$I_S/I_{SO} = 2.03$ $C_T \cdot S_D = 0.97$			
	屋内運動場 E棟(2階部分)			文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$I_S = 0.72$ $q = 1.33$			
	管理棟 F棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.42$			
3	岩手大学教育学部附属小学校校舎	加賀野二丁目6-1	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.43$			
4	岩手大学教育学部附属中学校校舎	加賀野三丁目9-1	中学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.18$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.47$			
5	緑が丘小学校	黒石野一丁目6-1	小学校	—	—	—	—	—
	校舎棟1(管理・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」(改訂版)に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.70$			
	校舎棟2(管理)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」(改訂版)に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.18$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.71$			

		校舎棟3(特別教室・普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」(改訂版)に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.18$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.73$				
6	厨川小学校		前九年一丁目2-1	小学校	—	—	—	—	—
		校舎棟1(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.21$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.72$			
		校舎棟2(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.72$			
		校舎棟3(管理・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.23$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.75$			
		校舎棟4(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.26$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.77$			
7	下橋中学校		馬場町1-1	中学校	—	—	—	—	—
		校舎棟1(特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.70$			
		校舎棟2(特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.18$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.72$			
		校舎棟3(特別教室・管理)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.72$			
8	大宮中学校		本宮字大宮5-1	中学校	—	—	—	—	—
		校舎棟1(管理・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.71$			
		校舎棟2(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.73$			
		校舎棟3(特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.21$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.74$			
9	青山小学校		青山二丁目7-2	小学校	—	—	—	—	—
		校舎棟2(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.48$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.89$			
		校舎棟3(特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.30$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.78$			
		校舎棟4(管理・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.26$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.76$			

				校舎棟5(渡り廊下)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 2.03$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.43$				
				校舎棟6(給食棟)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 2.85$ $C_{TU} \cdot S_D = 1.71$				
10	上田中学校				—	—	—	—	—	—
				校舎棟1(普通教室)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.25$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.75$				
				校舎棟2(特別教室・管理)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.72$				
				校舎棟3(特別教室・管理)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.44$				
		上田二丁目1-1.	中学校	校舎棟4(特別教室)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.16$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.70$				
				校舎棟5(特別教室)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.66$ $C_{TU} \cdot S_D = 1.00$				
				校舎棟6(渡り廊下)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針・同解説」に定める「第2次診断法」(1996年版)	$I_S/I_{SO} = 2.41$ $q = 2.42$				
				体育館	文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$I_S = 0.82$ $q = 1.54$				
11	中野小学校				—	—	—	—	—	—
				校舎棟1(特別・管理)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.23$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.74$				
		中野二丁目12-1	小学校	校舎棟2(普通教室)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.73$				
12	太田東小学校				—	—	—	—	—	—
				校舎棟1(普通教室)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.25$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.76$				
		上太田上野屋敷8-1	小学校	校舎棟2(管理)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.20$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.73$				
				校舎棟3(管理・普通教室)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.53$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.93$				
	大新小学校				—	—	—	—	—	—

13	校舎棟1(普通教室)	南青山町6-10	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.21 Ctu・Sd =0.74			
	校舎棟2(特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.23 Ctu・Sd =0.75			
	校舎棟3(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.23 Ctu・Sd =0.75			
	校舎棟4(特別教室・管理)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.35 Ctu・Sd =0.81			
	校舎棟5(昇降口・ホール)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.25 Ctu・Sd =0.95			
	校舎棟6(昇降口)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso =1.55			
	校舎棟7(給食棟)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso =1.68			
14	松園小学校	松園三丁目12-1	小学校	—	—	—	—	—
	校舎棟1(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.71			
	校舎棟2(特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.46 Ctu・Sd =0.47			
	校舎棟3(特別教室・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.52			
	校舎棟4(特別教室・管理)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.25 Ctu・Sd =0.76			
	校舎棟5(ボイラー・給食等)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =2.20 Ctu・Sd =1.66			
15	月が丘小学校	滝沢市穴口328	小学校	—	—	—	—	—
	校舎棟1(特別教室・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.26 Ctu・Sd =0.77			
	校舎棟2(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.71			
	校舎棟3(昇降口)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.20 Ctu・Sd =0.38			
	校舎棟4(管理・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.20 Ctu・Sd =0.72			

		校舎棟5(給食棟)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso =2.56				
		校舎棟6(廊下)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso =2.50				
16	仁王小学校		本町通二丁目18-1	小学校	—	—	—	—	—
		校舎棟1(普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.20 Ctu・Sd =0.74				
		校舎棟2(普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.35 Ctu・Sd =0.84				
		校舎棟3(特別教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.26 Ctu・Sd =0.79				
		校舎棟4(管理)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.23 Ctu・Sd =0.77				
		校舎棟5(給食棟)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.98 Ctu・Sd =1.23				
17	東松園小学校		東松園二丁目5-1	小学校	—	—	—	—	—
		校舎棟1(管理・普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.20 Ctu・Sd =0.72				
		校舎棟2(特別教室・普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.26 Ctu・Sd =0.77				
		校舎棟3(給食棟)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =3.90 Ctu・Sd =2.36				
18	見前小学校		西見前18-17-2	小学校	—	—	—	—	—
		校舎棟1(普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.23 Ctu・Sd =0.74				
		校舎棟2(管理・普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.72				
		校舎棟3(特別教室・普通教室)		(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.28 Ctu・Sd =0.77				
		体育館		文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is =0.81 q =1.79				
	松園中学校			—	—	—	—	—	—

19	校舎棟1(管理・普通教室)	松園三丁目12-1	中学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.25 Ctu・Sd =0.75			
	校舎棟2(管理・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.16 Ctu・Sd =0.71			
	校舎棟3(特別教室・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.58 Ctu・Sd =0.95			
20	北陵中学校	滝沢市穴口419	中学校	—	—	—	—	—
	校舎棟1(屋内運動場)			文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is =0.71 q =1.30			
	校舎棟2(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.23 Ctu・Sd =0.77			
	校舎棟3(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.25 Ctu・Sd =0.76			
	校舎棟4(管理・特別教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.39			
21	下小路中学校	愛宕町1-1	中学校	—	—	—	—	—
	校舎棟1(渡り廊下)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	Is/Iso =1.23 q =1.17			
	校舎棟3(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.71			
	校舎棟5(管理)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.28 Ctu・Sd =0.78			
	校舎棟7(管理)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is/Iso =1.63			
	体育館			文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is =0.91 q =2.81			
22	津志田小学校	津志田中央一丁目8-4	小学校	—	—	—	—	—
	校舎棟1(普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.18 Ctu・Sd =0.72			
	校舎棟2(特別教室・普通教室)			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso =1.31 Ctu・Sd =0.80			
	体育館			文部科学省による「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is =1.13 q =1.79			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{s0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{s0}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{s0} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{s0} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑪ 老人ホーム, 老人短期入所施設, 身体障害者福祉ホームその他これらに類するもの

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手県立療育センター	手代森6地割10-6	児童福祉施設	—	—	—	—	平成29年10月 解体工事完了
	サービス棟, 管理棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	用途廃止			
	学習棟, 訓練棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)				

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{SO}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$, $I_s / I_{SO} < 0.5$, $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$, $I_s / I_{SO} < 1.0$, $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑫ 幼稚園, 保育所

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	盛岡白百合学園幼稚園	山岸四丁目29-16	幼稚園	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{SO} = 1.38$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.58$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は, $I_{SO}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標, 経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{SO} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{SO} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$

⑬ 危険物の貯蔵場又は処理場の用途に供する建築物

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手県警察本部庁舎	内丸9-5	庁舎	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が充腹材の場合)(1983年版)	$I_s/I_{SO} = 1.11$			

I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

I_{SO} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は、 $I_{SO}=0.6$ として算定した)

$C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標。経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

q : 鉄骨造の場合の建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性が高い

$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$ 、 $I_s / I_{SO} < 0.5$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 1.5$

○大規模の地震(震度6から7)に対して倒壊し、又は倒壊する危険性がある

$I_s < 0.6$ 又は $q < 1.0$ 、 $I_s / I_{SO} < 1.0$ 、 $C_{TU} \cdot S_D < 0.3$